

# 大谷中学校だより No.11



URL <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/NC2/>

平成 27 年 10 月 26 日発行 文責：藤谷

一学期の生徒アンケート調査での回答で、苦手教科はそのままにしているという生徒がいました。教師の方でも積み残しのないように手立てをしていますが、なんといっても自分自身が克服しないと何も変わりません。家庭学習の中でヒントになるようなことを書いてみました。ぜひ取り組んでみてください。

## 珠洲市立大谷中学校単独校内文化祭最終年によせて

校長 濱 育代

西部小学校 2 F、臨時職員室前の生徒会掲示板には

9月・10月生徒会目標・・・団結して文化祭を盛り上げよう  
が掲げられ、職員室入り口には

文化祭テーマ・・・最高の仲間たちと最高の舞台へ  
～ 掘り出せ、自分のかくれた力を ～  
テーマソング・・・「だから一歩前へ踏み出して」Hi-Fi CAMP

と、力強い文字で書かれたポスターを、生徒会執行部が張り出していきました。そして「校長先生、僕たち生徒会執行部は

- ① 大谷中学校単独校内文化祭は、今年で最後だということを強く意識して臨みます。
- ② だからこそ、いつもの年より、もっともっと心に残るものにしたいという想いで臨みます。

そんな僕たちの願いをくみとったしおりの原稿を書いて下さい」と依頼にやって来たのです。来年度からの小中一貫教育の準備として、様々な行事や活動を小学校と一緒にやってきた今年度。その趣旨は大切にしながらも、中学生たちは、単独の中学生だけの行事ひとつひとつにも熱い想いをもって臨んでいたのです。

合唱練習・劇練習・ステージ背景図づくり・太鼓練習・オンステージ練習に意見体験発表・よさこいソーラン等々、盛りだくさんのプログラムを、たった16人でやりこなしている。展示物もどっさり。規模の大きい中学校では一人一役がめあてにあげられていることも多いが、大谷中学校では一人五役以上、そして作品数は一人十点以上である。そう考えると、最大の発信時間が文化祭ということになる。そして、その最高の舞台へ最高の仲間たちとのぼりたい。自分の勇気と努力で、今までの殻を打ち破り、一歩前へ踏み出したいと願いながら練習を積み上げてきた16名。本番では、きっとその力が、最大限に花開くと私は信じています。

放課後、狭い教室で作業をしている生徒たちの姿を見ながら、自分自身の中学生時代を思い返していました。5kmの徒歩通学をしていた私にとって、部活後の文化祭準備は時間との格闘でした。でも、仲間とおしゃべりしながらペンキを塗ったり、劇の衣装を縫ったりしていた時間は最高に楽しい時間でした。真っ暗なたんぼ道を歩いていても、明日はこの練習をしようとか、遅れている〇〇さんのお手伝いをしてあげようとか、うきうきしながら下校したものでした。クラス合唱の歌は、夜空の満月に向かって歌っていたものでした。そして、先生方には「早よ帰らんかあー」と叱られたものでした。今でも当時の事は鮮明に覚えているように、この16名にとっても、この大谷中学校単独校内文化祭が、そんな思い出の1ページになってくれたならと祈っています。

さあ16名の生徒たち。自分のかくれた力を自分の強い決意で掘り起こせ・・・

## 不得意教科の克服

家庭学習は、習慣化されていますか。決まった時間（学年＋1時間）机に向かっていますか。まず、その家庭学習の習慣をつくるのが第一です。家庭学習をたいつい避けて、不得意教科をつくっていませんか。

不得意教科はなぜ生まれてしまうのでしょうか。その要因には次のようなことが考えられます。

### ◆基本的な要因

- ・教科に対する興味関心が薄い。
- ・予習や復習を含めて学習量が不足している。
- ・結果としてテストの成績が上がらない。

### ◆教科別要因

#### 国語

- ・読書量が小さい時から少なく語彙不足である。じっくりものを考えられない。文章を書くことに慣れていない。
- ・漢字に対する苦手意識が強い。

#### 数学

- ・計算などの約束が十分に理解されておらず、ドリル不足が目立つ。
- ・ほとんど小学時代に不得意になっている。

#### 社会

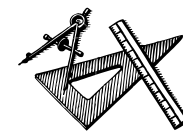
- ・記憶していく力が不得意。
- ・教科書の読み込みが絶対的に不足。
- ・社会に対する出来事に興味関心が薄い。
- ・新聞を読まない。

#### 理科

- ・科学に対する興味関心が薄い。
- ・問題をこなす量が少ない。
- ・飽きっぽい人が多い。
- ・じっくり検証できない。

#### 英語

- ・毎日の学習が根気強くできない。
- ・ドリル不足が根本的原因。書いて覚える習慣化ができない。
- ・辞書を使っの予習していない。



### ◆克服への基本的な心構え

- ・すぐに効果を期待しないで時間をかけて粘り強く取り組む。
- ・毎日の学習計画の中に、必ず不得意教科を入れて取り組む。
- ・先生や友達にどんどん質問する。

### ◆教科別克服大作戦

#### 国語

- ・短時間でも毎日読書をしていく。家読の習慣化。
- ・学習テキストや問題集を多くやること。
- ・三文や五文程度の単作文を書く習慣をつける。（生活ノートなどを書くときは意識して長めに書く）

#### 数学

- ・計算に強くなるドリルを多く取り込む。
- ・教科書を丁寧にやり返す。

#### 社会

- ・教科書を声に出して読む。
- ・重要語句にマーカーをつけて書いて記憶する。
- ・新聞を読むことに慣れる。
- ・問題集で応用力をつける。
- ・学習テキストで整理していく。

#### 理科

- ・学習テキストでまとめていく。
- ・社会と同様に問題集を多く取り入れる。

#### 英語

- ・声を出して教科書を何度も読むこと。
- ・英単語を繰り返し書き覚える。
- ・辞書を使って調べることを習慣化する。



## あきらめず粘り強く

JAバンク「くらしの絵」石川県知事賞：井上紗来  
お年寄の似顔絵コンクール 特選：濱 海翔  
市読書感想文コンクール

特選：宮前龍之介  
金田 奈々  
入選：浦 杏寿

うなぎ一億年の謎を追う 三年 宮前龍之介

僕が読んだ本は、うなぎ一億年の謎を追うという本です。この本を読む前はうなぎは川で生まれ川で生きているんだらうと思っていたので、うなぎの一億年の謎というのはどんなことだらうと思つて読みました。

まず驚いたことは、うなぎが皮ふ呼吸で必要な酸素の半分を取り込んでいるということ。うなぎは魚だから呼吸はほぼえら呼吸をしていると思つていたので驚きました。また、粘液は呼吸のときや滝の脇のぬれた岩をよじのぼつて上流に移動するときにも使われているのを知つて、逃げるために粘液をだしているんじゃない、いろんな工夫で生きているんだと思ひました。そんなうなぎを採るために昔からいろんな工夫や取り方が考えられてきたことも知りました。うなぎの習性や暮らしぶり、うなぎの捕獲時期や捕まえるための場所を利用してきたことが分かりました。僕はこの本の中に出てくる捕え方の中で「石倉漁」というのがおもしろそうだと思ひました。潮が引いた河口近くの浅い場所に石で小山を作つておいて、潮が満ちたとき石倉は水中に沈むと、どこからともなくうなぎが石倉に住みつきます。潮が引くと石倉を囲むように網を張り、ひとつずつ石を脇へどかしてうなぎを捕えるという方法です。うなぎの寝床を見つめるんじゃない、く作るといふところがおもしろい方法だと思ひました。

うなぎは環境の違いで体の色が変わつたり性が決まつたりすることも知つて少し驚いたけど、人間も同じような感じがしました。人間はうなぎと同じように育つて大きくなつてから性が決まつたりはしないけど、違う環境で育つことで、考え方や生活の仕方が変わつたりするので、どんな生物でも環境が違えば変わつてくると思ひました。また、環境が個人をつくることもあるんじゃないかと思ひました。

うなぎが子どもを産むために、何千キロも離れた場所を目指して、昼は深いところを泳ぎ夜は浅いところの上がつてきて回遊しているのを知り、子どもを産むということはとても大変だということも分かりました。

筆者のうなぎの研究をするまでの話しを読んでもすごいと思ひました。僕は、夢は変わつていくものだと思つていたけど、少し目的は違つても海に出たいという思いを持ち続け叶えられたというのがすごいと思つたからです。僕も夢をいだいて、それが叶えられたらいいなと思ひました。

日本のうなぎ産卵場調査の場面を読んで思つたことは、自分の手で謎を解き明かそうとするのは大変でおもしろいものだといいことです。何度も調査をするのは大変そうだと思ひけど、読んでいると筆者は楽しんでるように感じました。疲れを忘れて夢中になつたり、誰も知らないことを解き明かすということは、どんな感じがするんだらうと思ひました。自分もそんなことが感じられる経験ができたらいいなと思つてしまいました。また、作戦や仮説を立てて試してみるということが大切だということも分かりました。

筆者は、うなぎの産卵やレプトセファルスの旅のようすがかなり詳しく分かつたからこのまま調査を続けよううなぎの卵が採れるだらうと気軽に考へていました。ところが、まったく採れない結果も起つてくるので、試してみないと分からないことがあるということを知りました。そして、その結果からもつと考へることができるとも無駄ではないということも知りました。一方、筆者の考へた海山仮説と新月仮説を読んでおもしろいと思つたし、納得することができました。仮説を立てるにはこれまでも分かつてきたことを整理し、説明できる考へを発想しないとけないことでもあります。また、自分達に置き換えてみるということが大切だと感じました。失敗してもめげず、それがなぜだつたかを考へ、それを生かすことが大切だということを知りました。筆者は失敗しても、それを前向きに考へ次に生かそうとしていたから仮説が正しかつたと証明できたんじゃないかと思つたのです。僕も失敗してもあきらめず、次に必ず生かすようにしたいと思ひました。

目標を達成してもさらなる次を目指すことがおもしろく、達成することでも喜びも大きいんじゃないかと思ひました。知れば知るほどつと知りたくなるが研究を再開させたんじゃないかと思ひました。僕も目標を達成しても、それを追求し、もつといるんなことを知ろうと思ひました。

一瞬の風になれ 二年 金田奈々

私たちが生きている地球で、風を感じたことがない人はいないと思ひます。

風は、空気の流れのことを言い、風は決して目で見ることではできません。

私がこの本と出会つたきっかけは、授業中教科書をパラパラめくつていたら偶然この本を見つけて、題名がかつこよかつたので読んでみようと思ひました。

この本は、サッカーの才能がある兄を持つ主人公の新一がサッカーをやめ親友の連とスプリンターを目指すというお話です。

主人公の新一はとても努力家で見えた目は金髪でチャラチャラしてそうに見えるけど、とても真面目な男の子です。でも、親友の連は「つまんねえし」と言つてすぐ部活をやめたり、「好きな子ができた」と言つて部活を休んだり、嫌いな野菜は絶対食べないという超自由人です。

私はどちらかというと連っぽいと思ひます。夕食に嫌いな食べ物が出てきたら「おなか痛い」と嘘ついで食べなかつたり、お母さんに「テスト期間中だから来ちゃダメ」と言われた宴会に無理に頼んで行かせてもらえることになつたのに、眠くなつてきたので行かなかつたこともありました。だから私は、連の気持ちが何となく分かるなあ。と読みながら思ひました。

この本の中で心に残つた言葉があります。それは、陸上部に入りたての頃の新一に兄が「夢は？」と問うた時に新一が答えた「速くなる」という言葉です。たつたの五文字の夢だけどもとても難しい夢だと私は思ひました。私は練習するのがあまり好きじゃありません。疲れるし、面倒だからです。たまに「なんで練習しているんだらう？」と思ふことがあります。あんまり好きじゃない練習を汗かいてまでなんでするんだらう？と思ふことがあります。でもそれは、「強くなる」ためだと思ひます。強くなるためにより好きじゃない練習を汗をかきながらやるんだと思ひます。

私がこの本で一番好きな新一と連のやりとりがあります。それは、何日も部活を休んでいた新一に

「俺さ、つまんねえのよ。おまえ、いねえと。俺さ、おまえとかけっこしたくて、この部に入ったんだよ。速く走れると、なんか気持ちがいいのね。なんでだらうね。俺ア他のスポーツやらないからわかんねえけど、最高に気持ちよくない？」

「最高だ」

と、いう場面です。「かけっこ」と連が言つたとき私は「なんか子どもっぽい表現だな。」と思ひました。かけっこ言えば私は幼稚園でみんな、ただひたすら走つただけのことを想ひ出しました。あの時は運動会で、色んな人にほめてもらいたくて、一位を目指して走つていました。そういうのを連はしたのかな？と私は思ひました。その後新一が「最高だ」と答へ二人でみんなの所まで走つていった所を読んで、連はこういう感じでも楽しく走りたかつたんだらうな。と思ひました。そうやって二人は走りながらそれぞれ感じているんだらうなと思ふと、私も一緒に走りたくなつてきました。あの二人はすぐ早くから置いていかれてもいい。ただ二人の近くで同じ風を感じたいと思ひました。

私は風というと季節によつて印象が変わります。夏の暑い日に風が吹くと、とても涼しくなり、天から「いつも頑張っているね」とほめられているようで、嬉しいです。でも、冬の寒い日に風が吹くと、特に強風の日などは「ちゃんと働け」と言われているようで、とても怖い印象があります。

人それぞれ感じる風は違ふと思ひます。連や新一のように陸上部の人は追い風や向かい風を走っている時感じるだらうし、私のように季節の風を感じる人もいると思ひます。風は決して見ることでできないものなかもいれないけど、肌で感じることはできると思ひます。風を感じたことのない人はいないと思ひます。風は過去も未来も現在もいつでも止むことなく吹いています。題名のように風になることはできないけど、風と共に生きていくことはできると思ふので、私はこれからずっと目に見えない風と共に生きていきたいと思ひます。